

写 実  
リアルリアルのゆくえ

現代の作家たち 生きること、写すこと

展覧会 2022年11月29日(火)

～ 2023年 1月29日(日)

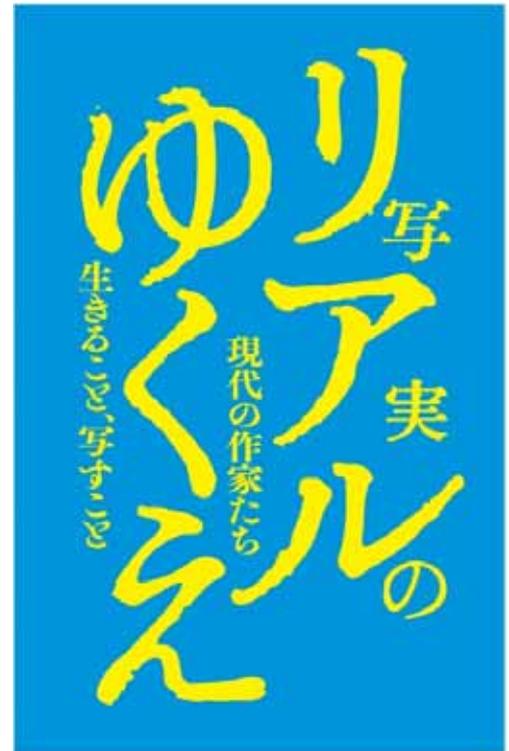
明治から現代美術に至る、日本の写実表現とは。

“ホンモノそっくり”にとどまらない、絵画、彫刻、工芸を横断

する26作家120点。生人形いきにんぎょう、高橋由一、高村光雲から、

現代の自在置物じざいおきもの、七瀬綾乃ななからげあやのや小谷元彦の新作、はたまた

現代の義手に至るまで。



【出品作家】

絵画 高橋由一、本田健、深堀隆介、水野暁、安藤正子、秋山泉、牧田愛、横山奈美

立体 松本喜三郎、安本亀八、室江吉兵衛、室江宗智、高村光雲、関義平、須賀松園(初代)、平櫛田中、佐藤洋二、前原冬樹、若宮隆志、小谷元彦、橋本雅也、満田晴穂、中谷ミチコ、本郷真也、上原浩子、七瀬綾乃



1) 高橋由一(たかはしゆいち)《読本と草紙》1874-75年 油彩、麻布 金刀比羅宮蔵  
開国間もない時代、西洋絵画の写実表現に初めて触れた世代である高橋由一。その“真に逼る”表現に魅せられ、自身も油彩を学び、モノのありようをその質感に至るまで画布に写し取ろうとした。

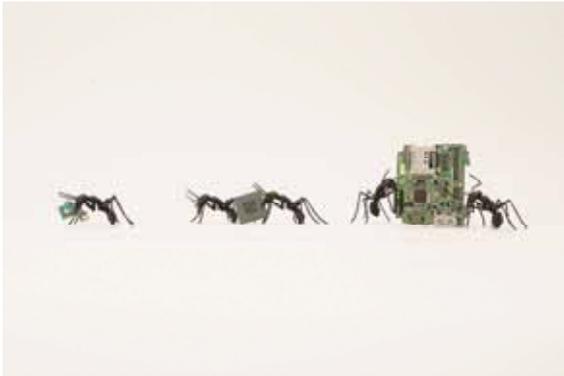


2) 深堀隆介(ふかほりりゅうすけ)《桜升 命名 淡紅》2017年 木曾檜五合枅・超難黄変エポキシ樹脂、アクリル絵具 平塚市美術館蔵  
金魚に救われたという深堀は、その姿を透明樹脂を一層ずつ流しこんでは描き重ねていく独特の“2.5D”の絵画を考案。

【お問合せ】

新潟市美術館 (荒井、岡村) TEL: 025-223-1622 E-mail: museum@city.niigata.lg.jp

小さなものから大きなものまで、見れば見るほどみどころ満載、素材や技法にもご注目。



3) 満田晴穂(みつたはるお)《自在大蟻行列 —円環—》  
2021年 銅、真鍮、青銅 個人蔵

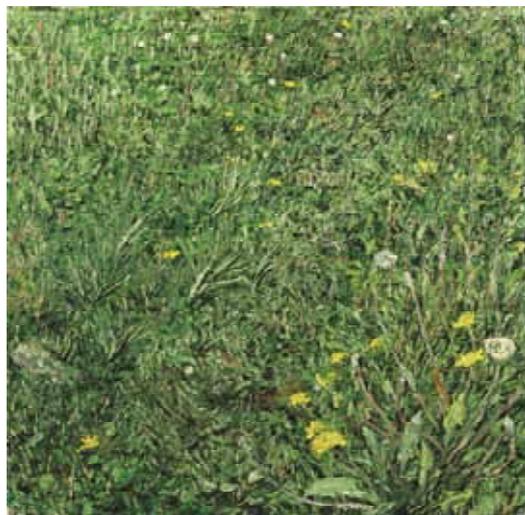
“等身大”の蟻をはじめ、得意の昆虫たちを多数出品



4) 本郷真也(ほんごうしんや)《<sup>えいきよ</sup>盈虚 —鐵自在イグアナ—》  
2019-22年 鉄 個人蔵

実際に“動く”様子も展示予定(日時限定)

江戸時代半ばに成立した自在置物は、金工による動物の模型にとどまらず、その関節までも本物通りに動かせることを追求した。その技法と精神を現代に受け継ぐ作家たちの仕事にも注目する。



5) 本田健(ほんだたけし)《道(庭)》  
2017年 油彩、キャンバス 個人蔵



6) 橋本雅也(はしもとまさや)《アヤメ》  
2019年 鹿角、鹿の骨 個人蔵  
撮影 奥山春日



7) 満田晴穂(みつたはるお)《一如》  
2019年 銅、真鍮、青銅 ホキ美術館蔵



8) 秋山泉(あきやまいずみ)《静物XIV》  
2012年 鉛筆、紙 個人蔵

大画面に鉛筆だけで描き出す静謐な世界



9) 牧田愛(まきたあい)《Cosmoplastics》2012-13年  
油彩、キャンバス 東京藝術大学大学美術館蔵

写真のようなリアリズムによって、生命体のように増殖する機械のイメージを追求



10) 七瀬綾乃(ななからげあやの)《rainbows edge XIV》2021年 樟 作家蔵

干からびた野菜をモチーフに制作された作品には死と生命の気配が漂う

本リリースに掲載の画像 ~ は、本展をご紹介いただける場合にかぎりすべてデータで提供可能です。掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、使用后、データは速やかに破棄してください。  
【画像使用全般に関する注意とお願い】 展覧会名、会期・会場名のほか、**指定のクレジットを必ずご掲載ください。** 画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。 WEBにてご掲載の場合には、コピーガード(右クリック不可)を施しダウンロード不可にしてください。 概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階でお送りくださるようお願いいたします。掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録 DVD を2部ご送付願います。

## 関連イベント

### ●アーティストトーク「生人形と近代の彫刻—リアルさとは何か 日本彫刻の特異点」

日時:12月10日(土)午後2時~4時

講師:小谷元彦さん(本展出品作家、美術家・彫刻家)

会場:新潟市美術館2階講堂

聴講無料、定員80名(先着順) 申込不要、感染症対策として、ご来場の際に氏名・連絡先の提供をお願いいたします。

日本の近代彫刻の成立に関心を持ち、現在は母校の東京藝術大学で彫刻の教鞭を執る小谷元彦さん。本展では生人形師・松本喜三郎とのコラボレーションとも語る新作を発表しました。その制作に至る、異色の彫刻史を論じます。

### ●担当学芸員によるギャラリートーク

12月18日(日)、1月9日(月・祝)各日午後2時~(30分程度) 要当日観覧券

### ●美術講座

○「リアル」の来し方—江戸の写実表現 講師:菅沼楓(当館学芸員)

日時:12月24日(土)午後2時~3時30分

○彫刻ゲン論—現実・幻影・原理— 講師:藤井素彦(当館学芸員)

日時:1月21日(土)午後2時~3時30分

いずれも申込不要、聴講無料、定員80名(先着順) 感染症対策として、ご来場の際に氏名・連絡先の提供をお願いいたします。

## 基本情報

展覧会名	「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」
会 期	2022年11月29日(火)~2023年1月29日(日) 48日間 前期展示12月25日まで・後期展示1月4日より
開館時間	午前9時30分~午後5時(券売は閉館30分前まで)
休 館 日	月曜日(1月9日(月・祝)、10日(火)開館)、12月27日~1月3日
会 場	新潟市美術館
観 覧 料	一般1,000円(800円)、大学生・高校生800円(600円) <b>中学生以下無料</b> *( )内は前売料金(一般のみ)、20名以上の団体料金、リピーター割引料金(本展観覧券の半券提示で本展2回目は団体料金に割引)・あっちも割引料金(2022年度以降の新津美術館の企画展観覧券提示で団体料金に割引) *会期中は、本展の観覧券で「コレクション展」もご覧いただけます *障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料(受付でご提示下さい)
〔前売券販売所〕	セブン-イレブン(セブンコード097-996)、インフォメーションセンターえん(メディアシップ1F)、シネ・ウインド、新潟市美術館、新潟市新津美術館 <b>10月下旬発売予定</b>
主 催	新潟市美術館
制作協力	NHKエンタープライズ中部
お問合せ先	新潟市美術館(荒井直美、岡村秀美) 〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9 TEL.025-223-1622/FAX.025-228-3051/E-MAIL museum@city.niigata.lg.jp <a href="http://www.ncam.jp">www.ncam.jp</a> <a href="http://www.ncam.jp/www.facebook.com/ncam.tsunagaru/">www.ncam.jp/www.facebook.com/ncam.tsunagaru/</a>

※ 新型コロナウイルス感染対策にご協力をお願いいたします 詳しくは当館ホームページをご覧ください

# リアル（写実）のゆくえ

取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書（FAX 専用）

**FAX 送信番号：025 - 228 - 3051 新潟市美術館宛**

- ◆ 展覧会取材、記事掲載時の作品写真（画像データ）及び、読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAX でお申し込みください。
- ◆ 別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、使用后、データは速やかに破棄してください。
- ◆ 展覧会名、会期・会場名のほか、**クレジット**を必ずご掲載ください。
- ◆ 画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。
- ◆ WEB にてご掲載の場合には**コピーガード**（※右クリック不可）を施し**ダウンロード不可**にしてください。
- ◆ 記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆ チケットプレゼントの提供は 1 媒体につき 10 組 20 名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。
- ◆ 読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆ 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録 DVD を 2 部ご送付願います。

○をおつけください	取材希望・チケットプレゼント希望・記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス(データ送付先)	
ご媒体名	
取材予定日	( 月 日 時頃)・取材予定なし
取材スタッフ	計 名(内カメラクルー 名)
掲載・放映予定日	月 日
チケットプレゼント希望	組 枚 ※1媒体につき 10 組 20 名様まで
通信欄 ※画像を希望する場合は、該当する 画像の番号を記してください。	